

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号					
施設名	敬愛高倉保育園				
施設所在地	八王子市高倉町46-1				
法人名	社会福祉法人 敬愛学園				
活動期間	令和	6	年	4	月 から 令和 7 年 3 月
活動内容の公表	✓	保育活動をドキュメンテーションで作成し園内に掲示、法人内での研修			
		公表したホームページ等のURL		なし	

2. 活動報告（注1）

番号	3											
テーマ	自然（ザリガニ＆ビオトープ）											
実施回数・期間 (注2)	令和6年4月から令和7年3月 ※活動は継続中											
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス		1歳児クラス		2歳児クラス		3歳児クラス		4歳児クラス		5歳児クラス	
		人		人		人	20	人		人	21	人
活動内容 (注3)	・図鑑で見つけたザリガニの飼育をしたく、川へ探しに行くが見つからず、春の遠足でザリガニを捕まえに行くことにした。 ・遠足で捕まえたザリガニの飼育を通して、生き物を大切にする心を育む ・保育室にビオトープ、水槽を設置し、水辺の生き物への興味関心を高める											
活動における チェックリスト	✓	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。										
	※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか ・保育者自ら飼育活動を楽しみその姿を子どもに見せるようにした。 ・興味、関心が高まるように園の入り口、各保育室など子どもの目に入りやすい位置に水槽、ビオトープを設置した											
	✓	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。										
	※記録をどのように行ったか 活動の様子をスマホを用いて写真にて記録した。また、ドキュメンテーションを作成し保護者にも見て頂けるように掲示した。											
	✓	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。										
	※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか ・自分もやってみたい！という気持ちを育めるよう、異年齢交流保育をしながら年長児クラスの活動を見学した。また、年下のクラスのお友だちに世話を子ども同士で伝え合えるような機会を作った。											
	✓	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。										
	※振り返りの実施方法 休息の時間に担任間・職員間で話し合い、他にどんな環境を用意するか話し合った。その際に、遊び方、お子さまの気づきを共有した。											
	✓	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。										
	※教諭や保護者等への共有方法 電話や研修で同席した際に法人内でビオトープや水槽を設置する前と後のお子さまの様子の変化について話し合った。保護者へはドキュメンテーションを用いて伝えた。											
	✓	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。										
	※継続的な実施のための工夫 水槽や生き物をクラスが変わるときにお部屋に設置したままにすることで翌年のクラスのお子さまにも興味関心が高まるようにした。また、今回実施しなかったクラスのお子さまも見られるようエントランスにも水槽を設置した。管理は引き続き実施したクラスの担任が進級後行う。											

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	敬愛高倉保育園
施設所在地	八王子市高倉町46-1
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然、生き物への興味関心（ビオトープ&ザリガニ飼育）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
法人内で運動、造形、食育、自然事象など様々な保育を探究するチームがある。生き物への興味関心を高める為、自然環境に近い形で観察出来るように、水槽やビオトープを設置した。

2. 活動スケジュール

・令和6年4月1日～現在も継続中

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
・水槽やビオトープを各保育室やエントランスに準備
・昆虫館と同じスペースに水槽も設置し、様々な生き物の観察ができるようにした。
・ビオトープには植物も配置し、自然の環境を再現した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・遠足で捕まえたザリガニを園で飼育。その後、産卵し増えたザリガニを複数の水槽に移し飼育を継続。飼育活動を通し、生き物への興味関心を高める。

・保育室内にビオトープを設置し、メダカ、ドジョウを飼育。また、ビオトープ内に植物を配置することで水やりをしなくても植物が生長する「共生」を知る

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

自分たちで捕まえたザリガニを飼育することで自然と「水槽を掃除する・エサをあげる・水を替える」という意識が芽生えた。

栽培活動を同時に行っていた為、「なんで栽培の野菜には水やりをするのに、ビオトープの植物には水をあげなくていいのか？」という疑問が上がり、近くの公園や河川敷に遊びに行き、土手や川、水場には水があり、その水を吸い上げている為水やりをしていなくても枯れずに植物が生長していることを知



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・保育室にある図鑑から興味・関心が高まり「ザリガニを飼育したい」という気持ちが飼育活動を通してザリガニに長生きしてほしいという気持ちが自然と高まり、飼育への意識が更に高まる姿、生き物を大切にしようとする優しい心が育まれていると感じた。保育者主導の飼育活動が多かったが、お子さま達から増えたザリガニをどうするか？水槽が足りないから買いに行こう！とお子さま主体で活動を進めることが出来た。年度が変わりお子さまも進級したが変わらずザリガニの様子を見守り、飼育活動が続いている。

・ビオトープを設置した当初は何をすればいいか分からず見ているだけだったが、時間経過と共に「水が少ない、えさあげた？」などビオトープのある環境が自然となり、ビオトープ内の変化に気付くようになった。保育者が声を掛けなくともお子さま達の中でビオトープの変化に気付くようになることを知った。